

多様な能力を評価する選抜方法に関すること

【論点】生徒の自己実現に資する入学者選抜制度の在り方

＜観点＞

- ・学区撤廃を見据え、受検機会を広げることが求められている中、現行の育成型選抜（実績重視枠、活動重視枠）を踏まえ、新たな募集分野や募集要件をどのように設計していくか。
- ・各高等学校が入学者選抜において自校の特色（スクール・ミッション／スクール・ポリシー等）をより反映させやすくするため、制度としてどのような方策が考えられるか。
- ・入学者選抜が学区撤廃後の受検機会の拡大として実際に機能するよう、実施日程（一本化を含む）など運用条件を制度としてどう整理するか。

【多様な能力を評価する選抜方法に関すること】 ○これまでの発言概要

第 1 回部会の発言概要	第 2 回部会の発言概要
<p>○現行の育成型選抜は「運動部中心」に偏っており、特定の能力をもつ生徒にしか受検機会がないため、中高接続の観点からもより多様な能力を評価でき、より多くの生徒がチャレンジできる仕組みづくりが必要。</p> <p>○保護者や生徒のニーズが多様化する中、高等学校側の受け入れ体制としては、部活動の専門的な指導を行える人材が不足しているなどで、十分対応し切れていない。</p>	<p>○徳島県の実情を踏まえた独自の工夫がなければ複数受検ができるだけで多様な学びや志望実現につながらない制度となるおそれがあり、その点への配慮が不可欠。</p> <p>○育成型選抜はスクール・ミッションやスクール・ポリシーを踏まえた募集内容となっており、各校の特色に応じた出題などを工夫できる点に意義がある。</p> <p>○入試回数を減らす場合でも、育成型選抜を残し一般選抜と併存させて、各校の特色と育成の機能を維持すべき。</p>